資料編について

中小企業家同友会全国協議会（中同協）は、会員企業を対象に 1990 年第１四半期より４半期ごとの景況調査を開始し、その結果については、同協議会内の企業環境研究センター（旧、景気・産業構造動向調査研究会）より、『同友会景況調査報告（ＤＯＲ）』として公表されてきた。ただし、そこでは提示グラフの基礎としてごく最小限の範囲でしか、数値データの公表は行われておらず、より詳細なデータの公表については、この『企業環境研究年報』に委ねられてきた。

過去、「資料編№.１」（『企業環境研究年報』第１号）、「資料編№.２」（『企業環境研究年報』第２号）、「資料編№.３」（『企業環境研究年報』第４号）、「資料編№.４」（『企業環境研究年報』第８号）、「資料編№.５」（『企業環境研究年報』第 12 号）に、４業種分類、６地域別分類、正規従業員規模別分類でのＤＩ（デフュージョンインデックス）とその内訳割合（%）について、調査開始の 1990 年第１四半期から 2007 年第３四半期までの結果を提示してきた。

本号の資料編では、調査を開始した 1990 年１～３月期から 2019 年４～６月期までの調査項目の推移、『同友会景況調査報告（ＤＯＲ）』タイトル、調査対象企業数、回答数、回答率の一覧を掲載した。また『企業環境研究年報』第 15 号においてＣＤ版で公開してきた 2010 年 10～12 月期以降の調査結果を下記ＵＲＬより閲覧できるよう整備した。

景況調査は業況調査とも呼ばれるが、決して業況感のみの調査ではない。受注、売上、採算、雇用、資金繰り等さまざまな角度から経営動向について点検を求めた上で、その総括としての業況の調査となっている。したがって、それは単なる意識調査の結果ではなく、計数調査の困難な中小企業分野においては、むしろ経営統計としての性格を併せ持つ資料として注目しなければならない。また、DOR 調査は 20 年にわたる調査の経過から、内外からそのような評価を得ていることも付記しておきたい。

このように考えると、各種機関の調査結果は可能な限り公表され、自由にそれらの比較検討がなされる形になっていることが望ましい。そして、各調査のもつさまざまな傾向や特性が解明され、もって全体として中小企業の経営動向の機敏な把握が進んでいくことが望ましい。そうした姿勢を率先してとっていこうというのがＤＯＲの立場であり、引き続きその全体を公表していく予定である。

中小企業家同友会全国協議会　企業環境研究センター
田浦　元（立教大学経済研究所研究員）

【同友会景況調査（DOR）回答数、DI 値一覧】
（1990 年第１四半期～2019 年第２四半期）
https://www.doyu.jp/research/dor/dordate1990_2019.xlsx
※　データ利用の際には、出典を記載してください。
記載例）　出典：中小企業家同友会全国協議会 同友会景況調査(DOR)データより

調査結果の詳細については、以下にお問い合わせ下さい。

中小企業家同友会全国協議会（中同協）企業環境研究センター　ＤＯＲ担当（本多、川上）
〒102－0074　東京都千代田区九段南 4-7-16　市ヶ谷ＫＴビル３階
TEL　03（5215）0877（代）FAX　03（5215）0878

資料－１　DOR 調査項目の推移　○印が調査項目に該当するもの

※「種類」のSAは単数回答質問, MAは複数回答質問, 数字は選択肢の数
※西暦横のローマ数字は期を表す（Ⅰは１～３月期, Ⅱは４～６月期, Ⅲは７～９月期, Ⅳは10～12月期）

質問項目名		種類	カテゴリー名	90Ⅰ	90Ⅱ	91Ⅱ	92Ⅰ	92Ⅲ	93Ⅱ	94Ⅳ	98Ⅳ	00Ⅱ～01Ⅰ	01Ⅱ	01Ⅲ	01Ⅳ	02Ⅰ	02Ⅱ～02Ⅲ	02Ⅳ～04Ⅱ	04Ⅲ～14Ⅱ	14Ⅲ～19Ⅱ
県コード		SA47	選択肢47都道府県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
企業コード		数量		-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
旧業種コード		SA95	選択肢（中分類準拠）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-
新業種コード		SA99		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○
正規従業者数		数量		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
臨時･パート数		数量		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
建設業の種類		SA3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
サービス業の種類		SA3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	○	○	○
売上高の増減	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経常利益の増減	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
採算好転理由		MA7	選択肢7, 複数回答可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
採算悪化理由		MA7	選択肢7, 複数回答可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
採算の水準		SA5	黒字, ヤヤ黒字, トントン, ヤヤ赤字, 赤字	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
建設業のみ																				
新規契約工事量	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
未消化工事量	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
着工工事量	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外注比率	前期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
製造業のみ																				
生産量	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
出荷量	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
在庫量	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
受注残	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
製品在庫の過不足		SA5	過剰, ヤヤ過剰, 適正, ヤヤ不足, 不足	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
原材料在庫の過不足		SA5	過剰, ヤヤ過剰, 適正, ヤヤ不足, 不足	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
流通･商業のみ																				
仕入数量	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
商品在庫量	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
商品在庫の過不足		SA5	過剰, ヤヤ過剰, 適正, ヤヤ不足, 不足	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サービス業のみ																				
利用客数	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
施設稼働率	前期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
要員稼働率	前期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
付加価値/１人	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
売上高/１人	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
仕入単価	前期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
販売･売上単価	前期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	上昇, 横ばい, 低下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

質問項目名		種類	カテゴリー名	90Ⅰ	90Ⅱ	91Ⅱ	92Ⅰ	92Ⅲ	93Ⅱ	94Ⅳ	98Ⅳ	00Ⅱ～01Ⅰ	01Ⅱ	01Ⅲ	01Ⅳ	02Ⅰ	02Ⅱ～02Ⅲ	02Ⅳ～04Ⅱ	04Ⅲ～14Ⅱ	14Ⅲ～19Ⅱ
正規従業者数	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
臨時･パート数	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
所定外労働時間	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
人手の過不足	過不足感	SA5	過剰, ヤヤ過剰, 適正, ヤヤ不足, 不足	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	過剰の内訳	SA4	下記	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	不足の内訳	SA4	下記	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
借入金の有無		SA3	有り, 無し	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○
（長期）主な借入先		MA7	下記	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○
（短期）主な借入先		MA7	下記	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○
借入金の増減	前期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
（長期）	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○
（短期）	前年同期比	SA3	増加, 横ばい, 減少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○
長期資金の借入難度	前期比	SA3	困難, 不変, 容易	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	困難, 不変, 容易	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
短期資金の借入難度	前期比	SA3	困難, 不変, 容易	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	前年同期比	SA3	困難, 不変, 容易	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
資金繰りの状況		SA5	余裕有り, ヤヤ余裕あり, 順調, ヤヤ窮屈, 窮屈	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長期資金借入金利		SA3	上昇, 横ばい低下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
短期資金借入金利		SA3	上昇, 横ばい低下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
受取手形期間		SA3	短期化, 不変, 長期化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設備の過不足感		SA5	過剰, ヤヤ過剰, 適正, ヤヤ不足, 不足	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設備投資の実施状況	実施の有無	SA2	実施した,実施してない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	実施方法	SA4	現物購入,リース,現物とリースの両方,その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○
	実施内容	MA6	下記	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	実施目的	MA6	下記	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設備投資の次期計画	計画の有無	SA2	計画あり, 計画なし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	計画内容	MA6	下記	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	実施目的	MA6	下記	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設備投資の次々期計画	計画の有無	SA2	計画あり, 計画なし	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	計画内容	MA6	下記	-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
投資計画ない理由		MA5	下記	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○
業況判断	前期比	SA3	好転, 不変, 悪化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	前年同期比	SA3	好転, 不変, 悪化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次期見通し	SA3	好転, 不変, 悪化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	次々期見通し	SA3	好転, 不変, 悪化	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業況の水準		SA5	良い, ヤヤ良い, そこそこ, ヤヤ悪い, 悪い	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業況水準次期見通し		SA5	良い, ヤヤ良い, そこそこ, ヤヤ悪い, 悪い	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経営上の問題点		MA19	選択肢19, 複数回答可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経営上の力点		MA14	選択肢19, 複数回答可	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

＜選択肢＞

人手の過不足内容　1.正規従業員　2.臨時･ﾊﾟｰﾄ･ｱﾙﾊﾞｲﾄ　3.正規･臨時とも　4.その他

経営上の問題点　1.大企業の進出による競争の激化　2.新規参入者の増加　3.官公需要の停滞　4.民間需要の停滞　5.取引先の減少　6.仕入単価の上昇　7.人件費の増加　8.管理費等間接経費の増加　9.金利負担の増加　10.事業資金の借入難　11.従業員の不足　12.熟練技術者の確保難　13.下請業者の確保難　14.販売先からの値下げ要請　15.輸出困難　16.輸入品による圧迫　17.税負担の増加　18.仕入先からの値上げ要請　19.その他　※「3.同業者相互の価格競争の激化」追加

経営上の力点　1.付加価値の増大　2.新規受注(顧客)の確保　3.人件費節減　4.人件費以外の経費節減　5.財務体質の強化　6.機械化促進　7.情報力強化　8.人材確保　9.社員教育　10.新事業の展開　11.得意分野の絞り込み　12.研究開発　13.機構改革　14.その他

設備投資実施・計画内容　1.土地　2.事業所･店舗･倉庫　3.工場　4.機器設備　5.福利厚生施設　6.その他　※「5.情報化設備　6.自動車等運搬手段」追加

設備投資実施・計画目的　1.能力増強　2.新製品･製品高度化　3.合理化･省力化　4.研究開発　5.置換え・更新　6.その他

設備投資計画なしの理由　1.資金がない　2.投資しても採算の見込みない　3.自業界の先行き不透明　4.当面は修理で切り抜ける　5.その他

採算好転理由　1.売上数量・客数の増加　2.売上単価・客単価の増加　3.人件費の低下　4.原材料費・商品仕入額の低下　5.外注費の減少　6.金利負担の減少　7.本業以外の部門の収益好転　8.その他

採算悪化理由　1.売上数量・客数の減少　2.売上単価・客単価の低下　3.人件費の増加　4.原材料費・商品仕入額の増加　5.外注費の増加　6.金利負担の増加　7.本業以外の部門の収益悪化　8.その他

長期・短期資金の主な借入先　1.都銀　2.地銀　3.第２地銀　4.信金　5.信組　6.政府系金融機関　7.制度融資

注）01年４～６月期のみ「価格下落の要因（ＭＡ12）」と「価格下落への対応（ＭＡ10）」の２設問あり。

資料－２　同友会景況調査（DOR）　タイトル，回答数・回答率一覧

調査時期	号数	タイトル（特別調査は調査テーマを括弧内に記載）	調査対象企業数	回答数	回答率
1990年　第１四半期　（1～3月）	1号		2,190	1,024	46.8%
第２四半期　（4～6月）	2号	マクロ景気は堅調だが，中小企業景気，次第に減速へ	2,177	862	39.6%
第３四半期　（7～9月）	3号	景気の転換期で進展する利益率の低下	2,370	970	40.9%
第４四半期（10～12月）	4号	強まる中小企業の景気後退の兆し	2,373	851	35.9%
1991年　第１四半期　（1～3月）	5号	一段下げ景気で横ばい	2,344	957	40.8%
（特別調査）	6号	（企業概要，資産投資の実施内容，資産価格変動の影響，湾岸戦争の影響）	2,344	955	40.7%
第２四半期　（4～6月）	7号	曇り空続く中小企業の景気	2,297	1,068	46.5%
第３四半期　（7～9月）	8号	リセッションの門口に経つ減速景気	2,297	1,035	45.1%
第４四半期（10～12月）	9号	平成景気から平成不況へ－回復は92年度後半か	2,297	861	37.5%
1992年　第１四半期　（1～3月）	10号	動き出した水面下での回復－1～3月は大幅減	2,297	1,001	43.6%
（特別調査）	11号	（労働時間，取引関係）	2,297	1,001	43.6%
第２四半期　（4～6月）	12号	長引く景気停滞	2,288	1,118	48.9%
第３四半期　（7～9月）	13号	景気回復は93年4～6月期が濃厚－7～9月期最悪	2,317	1,067	46.1%
第４四半期（10～12月）	14号	今が景気の最悪期－回復時期遅れる	2,315	1,021	44.1%
1993年　第１四半期　（1～3月）	15号	横ばい推移の上半期景気	2,312	1,202	52.0%
（特別調査）	16号	（金融）	2,312	1,180	51.0%
第２四半期　（4～6月）	17号	低迷局面下で回復格差強まる	2,189	1,143	52.2%
第３四半期　（7～9月）	18号	構造調整で停滞局面長期化の様相	2,219	1,120	50.5%
第４四半期（10～12月）	19号	94年上期も停滞局面－自立的回復の基礎堅めの年に	2,230	1,069	47.9%
1994年　第１四半期　（1～3月）	20号	景気下げ止まりの兆し出現－残る持続力への不安	2,239	1,070	47.8%
第２四半期　（4～6月）	21号	景気持ち直しの芽に円高の障壁	2,226	739	33.2%
（特別調査）	22号	（新価格革命）	2,226	650	29.2%
第３四半期　（7～9月）	23号	不安定な環境下で回復局面入り－経常利益ではなおマイナス	2,218	1,008	45.4%
第４四半期（10～12月）	24号	景気回復の足どりが鈍化	2,235	947	42.4%
1995年　第１四半期　（1～3月）	25号	大企業と中小企業の連動なき景気	2,226	960	43.1%
第２四半期　（4～6月）	26号	中小企業景気はすでに再下降局面入り	2,221	944	42.5%
第３四半期　（7～9月）	27号	景気低迷下で拡大する経営力格差	2,202	914	41.5%
（特別調査）	28号	（規制緩和）	2,221	700	31.5%
第４四半期（10～12月）	29号	ナベ底景気からの脱出をめざして	2,190	886	40.5%
1996年　第１四半期　（1～3月）	30号	構造調整を残しつつ再回復に向かう	2,185	939	43.0%
第２四半期　（4～6月）	31号	景況改善するも盛り上がりみられず	2,221	1,004	45.2%
第３四半期　（7～9月）	32号	景気転変　実質は横バイ状態	2,199	994	45.2%
第４四半期（10～12月）	33号	97年上期は後退に向かう様相	2,189	912	41.7%
1997年　第１四半期　（1～3月）	34号	強まる中小企業景気の失速	2,189	972	44.4%
第２四半期　（4～6月）	35号	中小企業置き去り型の緩やか回復	2,209	1,026	46.4%
第３四半期　（7～9月）	36号	中小企業景気はすでに後退局面入り	2,188	1,026	46.9%
第４四半期（10～12月）	37号	98年上期は“不況の中の不況”	2,212	1,025	46.3%
（特別調査）	38号	（会内経営実態調査）	2,188	620	28.3%
1998年　第１四半期　（1～3月）	39号	98年は景気停滞の可能性大	2,227	1,106	49.7%
第２四半期　（4～6月）	40号	景気持ち直しは年明け以降	2,202	1,126	51.1%
第３四半期　（7～9月）	41号	中小企業景気は過去最悪の危機	2,192	1,189	54.2%
第４四半期（10～12月）	42号	景気下降は休止　自律回復見えず	2,194	1,147	52.3%
1999年　第１四半期　（1～3月）	43号	景況感上向くが，企業採算悪化	2,250	1,179	52.4%
第２四半期　（4～6月）	44号	改善立ち遅れる中小企業景気	2,223	1,157	52.0%
第３四半期　（7～9月）	45号	「改善」続くが水面下を浮上せず	2,208	1,123	50.9%
第４四半期（10～12月）	46号	ミレニアムは景気の“腰折れ”からスタート	2,241	1,013	45.2%
2000年　第１四半期　（1～3月）	47号	中小企業景気はなお不安定	2,229	1,033	46.3%
第２四半期　（4～6月）	48号	改善みるも業種間・地域間不均衡拡大	2,168	990	45.7%
第３四半期　（7～9月）	49号	水面近くまで改善したが下期悪化か	2,171	1,040	47.9%
第４四半期（10～12月）	50号	新世紀の景気は腰折れ模様	2,132	940	44.1%
2001年　第１四半期　（1～3月）	51号	中小企業景気は不況局面入り	2,132	1,010	47.4%
（特別調査）	52号	（IT投資）	2,132	463	21.7%
第２四半期　（4～6月）	53号	2001年下期も景気悪化続く	2,113	1,019	48.2%
第３四半期　（7～9月）	54号	中小企業景気再び本格的不況へ	2,102	978	46.5%
第４四半期（10～12月）	55号	中小企業景気一段下げで上期低迷	2,125	900	42.4%
2002年　第１四半期　（1～3月）	56号	大企業と中小企業の景況格差が拡大	2,124	954	44.9%
第２四半期　（4～6月）	57号	中小企業景気は実質「横ばい」	2,115	948	44.8%
第３四半期　（7～9月）	58号	2002年度の景気は下向き濃厚	2,060	939	45.6%
（特別調査）	59号	（経営環境の変化と対応）	19,618	4,029	20.5%
第４四半期（10～12月）	60号	2003年は停滞から下降へ	2,097	871	41.5%
2003年　第１四半期　（1～3月）	61号	イラク戦後も中小企業景気は停滞	2,260	1,014	44.9%
第２四半期　（4～6月）	62号	好転みせるも，先行き楽観できず	2,231	1,014	45.5%
第３四半期　（7～9月）	63号	底離れするも自律力弱く鈍い改善	2,241	974	43.5%
第４四半期（10～12月）	64号	浮揚力弱く回復には至らず	2,229	875	39.3%

調査時期	号数	タイトル（特別調査は調査テーマを括弧内に記載）	調査対象企業数	回答数	回答率
2004年 第１四半期 （1～3月）	65号	回復機運出て，水面浮上間近に	2,216	922	41.6%
第２四半期 （4～6月）	66号	水面上に出るも，大企業との段差埋まらず	2,315	952	41.1%
第３四半期 （7～9月）	67号	製造業減速，全体ではプラスを維持	2,182	908	41.6%
（特別調査）	68号	（転換期における雇用・労働の変化）	21,507	3,021	14.0%
第４四半期 （10～12月）	69号	中小企業の景気は緩やかな後退局面	2,404	958	39.9%
2005年 第１四半期 （1～3月）	70号	持ち直しの気配あるもなお水面下	2,401	1,005	41.9%
第２四半期 （4～6月）	71号	下げ止まるも先行きの不安材料山積	2,382	985	41.4%
第３四半期 （7～9月）	72号	景気持ち直すも持続性に不安	2,411	971	40.3%
第４四半期 （10～12月）	73号	景気上昇続くも格差広がり浮揚力弱し	2,389	913	38.2%
2006年 第１四半期 （1～3月）	74号	一時後退するも今後緩やかに前進人手不足強まる	2,378	944	39.7%
第２四半期 （4～6月）	75号	緩やかな改善だが懸念材料も出始める	2,366	990	41.8%
第３四半期 （7～9月）	76号	大枠では横ばい，首都圏独歩高	2,402	1,001	41.7%
第４四半期 （10～12月）	77号	2007年の始まりは下方転換の兆しあり	2,421	939	38.8%
2007年 第１四半期 （1～3月）	78号	中小企業景気の下方傾向，より明確に	2,407	941	39.1%
第２四半期 （4～6月）	79号	中小企業景気は“ミニ”不況的様相	2,395	974	40.7%
第３四半期 （7～9月）	80号	中小企業景気，低迷が長引く	2,372	931	39.2%
第４四半期 （10～12月）	81号	不況下の物価高で景気深刻化	2,269	806	35.5%
2008年 第１四半期 （1～3月）	82号	原材料･資材価格の高騰，全面不況を呼ぶ	2,237	901	40.3%
第２四半期 （4～6月）	83号	不況下，中小企業は利益圧縮危機	2,378	1,007	42.3%
第３四半期 （7～9月）	84号	新型複合不況で中小企業，存亡の危機	2,374	1,008	42.5%
第４四半期 （10～12月）	85号	世界同時不況・受注止めの中，経営崩壊の危機	2,453	1,045	42.6%
2009年 第１四半期 （1～3月）	86号	バブル崩壊後不況を超える最悪の業況悪化	2,434	1,077	44.2%
第２四半期 （4～6月）	87号	業況の急落止まるも，人手・設備の過剰最悪	2,448	1,058	43.2%
第３四半期 （7～9月）	88号	景況反転するも，いまだ ’98年金融危機の最悪期並み	2,435	1,033	42.4%
第４四半期 （10～12月）	89号	わずかに回復への動き出るも，需要と価格競争はより深刻か	2,433	927	38.1%
2010年 第１四半期 （1～3月）	90号	景気の底は脱するも，収益は低迷	2,437	979	40.2%
第２四半期 （4～6月）	91号	業況水準の足どり重く，先行き不透明	2,484	1,023	41.2%
第３四半期 （7～9月）	92号	景気後退局面入りの可能性，大	2,432	963	39.6%
第４四半期 （10～12月）	93号	駆け込み反動減から2011年初，景況悪化	2,411	921	38.2%
（特別調査）	94号	（価格と取引関係）	37,986	4,099	10.8%
2011年 第１四半期 （1～3月）	95号	中小企業，震災・原発事故による供給ネック不況へ突入	2,458	1,006	40.9%
第２四半期 （4～6月）	96号	大震災不況やや改善するも，本格回復は復興政策如何	2,449	1,017	41.5%
第３四半期 （7～9月）	97号	景況は震災前水準へ到達，下期は回復力鈍化	2,399	956	39.8%
第４四半期 （10～12月）	98号	リーマン・ショック前水準・震災前水準に戻るも2012年初，強い減退懸念	2,401	867	36.1%
2012年 第１四半期 （1～3月）	99号	明るさやや増すも，景況感格差が拡大，先行き不安定	2,372	950	40.0%
第２四半期 （4～6月）	100号	中小企業景気の回復，息切れの兆し	2,364	941	39.8%
第３四半期 （7～9月）	101号	中小企業，景気後退のリスク高まる	2,368	924	39.0%
第４四半期 （10～12月）	102号	中小企業景気，年初，一層の冷え込み	2,354	881	37.4%
2013年 第１四半期 （1～3月）	103号	アベノミクス効果 中小に及ばず 円安先行で採算伸び悩み	2,397	962	40.1%
第２四半期 （4～6月）	104号	水面下の改善あるも，先行き不安定感ぬぐえず	2,413	956	39.6%
第３四半期 （7～9月）	105号	改善続くが，消費増税後の反動＝景気後退に懸念強し	2,443	952	39.0%
第４四半期 （10～12月）	106号	中小景気，天井打つも，消費増税不況含み	2,442	907	37.1%
2014年 第１四半期 （1～3月）	107号	中小企業の消費増税反動減，谷深し	2,374	933	39.3%
第２四半期 （4～6月）	108号	消費増税反動減，中小企業の回復は緩慢	2,511	1,141	45.4%
第３四半期 （7～9月）	109号	円安・物価高，不況がらみの二重苦，中小企業を直撃	2,503	1,123	44.9%
第４四半期 （10～12月）	110号	中小企業はすでに“アベノミクス不況”のさなか	2,486	1,031	41.4%
2015年 第１四半期 （1～3月）	111号	4期連続マイナスで景気停滞，二極化さらに鮮明に	2,466	1,055	42.8%
第２四半期 （4～6月）	112号	かすかな上昇感でるも，多様な格差広がる	2,451	1,077	43.9%
第３四半期 （7～9月）	113号	明・暗まだら模様，先行き楽観を許さず	2,446	1,030	42.1%
第４四半期 （10～12月）	114号	経営努力著しいが景況の腰折れか？	2,423	967	39.9%
2016年 第１四半期 （1～3月）	115号	中小企業，第二次アベノミクス下で景気失速	2,396	969	40.4%
第２四半期 （4～6月）	116号	中小企業景気低迷へ，“ＥＵショック”で先行き不安増大	2,384	1,013	42.5%
第３四半期 （7～9月）	117号	一部で改善するも，中小企業景気の不安定感ぬぐえず	2,325	1,010	43.4%
第４四半期 （10～12月）	118号	円安などで一時的な好転あるも，2017年前半の景気は下方屈折の恐れ増す	2,303	960	41.7%
2017年 第１四半期 （1～3月）	119号	「好転」と「悪化」傾向が混在する足元の景気は花冷え	2,309	918	39.8%
第２四半期 （4～6月）	120号	中小景気，回復感あれど，定着には至らず	2,402	963	40.1%
第３四半期 （7～9月）	121号	景況感は好調なれど，人材不足問題が浮上	2,379	1,002	42.1%
（特別調査）	122号	（採用と社員教育）	33,902	2,009	5.9%
第４四半期 （10～12月）	123号	2017年景況好転，18年上期は潮目変わり時の兆候あり	2,367	947	40.0%
2018年 第１四半期 （1～3月）	124号	予測通り景気低落，次期の期待あれどトランプリスクの懸念のこる	2,392	938	39.2%
第２四半期 （4～6月）	125号	好転と悪化入り交じり，トランプショックの可能性，高まる	2,373	1,003	42.0%
第３四半期 （7～9月）	126号	現状は小康状態だが，懸念はトランプ貿易戦争のゆくえ	2,416	967	40.0%
第４四半期 （10～12月）	127号	過年は低空飛行なれど，新年は波乱含みか	2,393	896	37.4%
2019年 第１四半期 （1～3月）	128号	中小企業景気も下方屈折，前途の不安定さ拭えず	2,397	872	36.4%
第２四半期 （4～6月）	129号	景気，崖っぷちに向う動き示す　製造業と商業は悪化の一途	2,380	942	39.6%